

# 教採の準備と本番はこんなふうに

— 2014 年度「教員採用試験合格者の経験を聴く会」の記録—

## 合格するためには戦略家たれ！

辺田 洋文（法学部政治学科 4 年）

「理想を失わない現実主義」。合格者体験談の執筆を依頼され何を書こうか考えている時、ふとこの言葉が頭に浮かんだ。あるラジオ番組でスタジオジブリの鈴木敏夫プロデューサーが、宮崎駿監督は映画を作るときに「現実的に観客が受け入れてくれるもの」を考えながら制作していたためその言葉を好んで使っていた、と話していた。

翻って教師という職業はどうだろうか。私の周りを見ていると教師を目指す人の多くは、中学・高校時代にかけてえのない人生経験をしていたり、子供に対する愛着を強く持っていて、直ぐにでも教壇に立って欲しい魅力を持っている。しかし、そうした優れた理想を持つ人すべてが直ぐに教師になれるわけではない。それは大学受験が希望通りにいかないように、教師になるためにも採用試験という「壁」があるからだ。

その壁を越えるためには、私たちは心を鬼にして現実的になり、綿密な「戦略」を立てなければならない。私は埼玉県教員になるために 3 つの戦略を立てた。その戦略とは、希望する自治体の情報を集めること、基礎基本を徹底的に理解すること、面接・論文・討論の練習を早いうちから行うことである。

まず試験対策を始める前に、希望する自治体の情報を集めることは欠かせない。なぜなら自治体によって教育方針や出題される傾向が異なるため、情報収集を怠ると見当違いな試験対策になってしまうからだ。例えば私の受験した埼玉県高校公民は、一次試験にセンター試験レベルより少し上の 4 択問題、二

次試験に語句の説明や板書案を中心とした筆答が行われる。こうした埼玉県の特徴は他県と著しく異なるため、所謂参考書に書かれている勉強法ではあまり効果がないと思われた。

そこで私は学校で使われている教科書を何度も読み返し、基礎基本を徹底した。冒頭で基礎基本の理解を「徹底的に」と強調したのは、教科書に使われている基本的な語句を覚えるだけでなく、具体的に説明できるようにするということだ。例えば「公定歩合の操作はなぜ行われなくなったのか」「エロースとアガペーとフィリアの違いは何か」という問題が、実際に埼玉県の一次試験と二次試験の筆答にそれぞれ出題された。この問題に答えるためには、用語を覚えるだけでなく、言葉の背景を理解し具体的に説明できる力が必要なのだ。問題集に沿ってただ闇雲に記憶の定着を図っていても、こうした問題には対応できない。出題者の意図は、覚えることよりも理解していることに重点を置いているからだ。そのため参考書に頼るより教科書に載っている基本的な語句を時間をかけて理解していくことが、最も現実的な方法であった。

一方で、試験勉強に忙しくなるあまり見落とされがちな点がある。それは二次試験には面接や論文、討論も含まれているということだ。もしも「論文や討論は直前でなんとかなる」「一次を突破してから面接の練習」と高を括っている人がいるなら、二次では痛い目を見るだろう。なぜなら一次試験を突破しても二次試験の面接や討論である程度のスコアを出さなければ、教師にはなれないからだ。「一次に受かって二次に落ちたら何の意味もない」。この先輩の言葉は去年の合格者体験談を聞いた時に、私に強い印象を与えた。目の前

のことにとらわれず、先を見通して戦略を考える。そうした緻密な思考が可否を分けるのかもしれない。

以上のように教員採用試験に合格するためには「現実的な戦略」を練っていく必要がある。そして戦略を描く上で一番大切なことは、出題者の意図を理解し先を見通す力である。どんなに高い理想を持っていても、この部分を誤ると失敗する。教員を目指す多くの人は高い理想を持っている。その理想を失わずに現実的に何をすべきかを試行錯誤しながら、自分なりの戦略を立てて欲しい。頑張ってください。

---

## 教採、もし公立に落ちたら！？

長江 詩門（法学部政治学科4年）

---

### 1. 私の経験

教員を志望している方、初めまして。私は今春から私立高校の教員として働きます。少しでも皆さんの参考になればと思い、私の経験と対策法を述べたいと思います。

私は東京都の採用試験を受けましたが、一次で落ちました。教職教養・専門教養で8割5分取ったものの、論作文で最低の評価を食らいました。その後、東京を中心に私立中高を受け始めました。受けたのは合計約10校、多分少ない方だと思います。ある研修会に参加していたのですが、その研修会場の学校から内定を頂きました。

以下では前半に私立の採用試験の仕組み、後半にその対策について記しています。

### 2. 私立の採用試験の仕組み：ほぼ“就活”！！

私立の採用試験は、就活をイメージして頂ければ分かりやすいと思います。各学校に募集が出て、書類を出して、筆記を受けて、面接して…違うことと言えば、模擬授業があることくらいでしょうか。

求人にも時期によって多少の差があります。募集の山は3つ。

①6～7月（専任教諭…いわゆる「フルタイム教員」の募集が多い）

②9～11月（常勤講師…いわゆる「契約社員教員」）

③12月以降（非常勤講師…いわゆる「アルバイト教員」）

おそらく公立に採られる前に優秀な先生を採りたい、ということなのでしょう。実際、6～7月に公立の対策をしながら私立を受けるのはなかなかハードです。学生であれば教育実習がある場合が多いので、尚更です。

また、「私立は新卒を取りたがらない」傾向があります。そのため、一旦講師として学校に入り、数年後に専任教員となるケースも多いようです。

### 3. スケジュール

①情報収集期（9～12月）：教員採用試験の内容や対策、どんな参考書を使うか等の情報収集。勉強は1日2時間くらい。

②インプット期（1～3月）：とにかく参考書の読み込み。インプット重視。1日7時間くらい。面接練習・模擬授業も少しずつ開始。

③アウトプット期（4月以降）：問題集をこなす→復習の繰り返し。1日5時間くらい。面接練習・模擬授業を増やす。求人を探し始める。

こんな感じでした。筆記試験については多くの方は中高大で受験の経験があると思うので、各々のやり方でいいと思います。

### 4. 選考のコツ

当然ですが、受ける学校のことはよく調べましょう。ネットや本でもいいですが、実際に生徒と会える、学校に入れるのであれば、それをオススメします。これは個人的な見解ですが、自らの経験を元に話した方が説得力は増すと思います。

それから、面接中は笑顔でいた方が良いと思います。良い印象を与えられる他、自分もリラックスできます。なんでもかんでも笑つ

たりニヤニヤするのは良くありませんが、普段の「4割増笑顔」で大丈夫です。

面接練習については、たくさんやっておいた方が良いと思います。勉強会等で見知らぬ人と面接練習をして、気付いたところを指摘してもらおう。そうすることで自分の気付かなかったところに気付く他、度胸もつきます。

模擬授業については、前もってテーマを知らせるものと、当日その場で言われるものどちらもあります。時間は大体20分程度です。私は地理で地形図の授業で、地形図をA1サイズに超拡大コピーして使いました。道具持込OKの場合も多いので、事前に確認の上、使ってみると良いでしょう。

## 5. 終わりに

選考に受かる為には、「なるべく少ない手数」で行動しましょう。頑張りすぎると疲れてしまいます。抜くべきところは抜いて、必要なことは全力でやりましょう。また、なるべく可能性を広げて下さい。色々なところを受けて、色々な勉強会に行って、色々な人と知り合いしましょう。特に私立の求人紹介も多いです。

近い将来、皆さんと同じ仕事ができることを楽しみにしています！

---

## 「自分」を見つめれば道は拓かれる

榊原 信乃（文学部日本文学科4年）

---

大学3年生の4月から教採対策の参考書や問題集を読み始め、その後約1年半、試験勉強をした。非常に長い期間だったため、集中力が切れそうになることもあったが、適度な息抜きや、友人と遊びに行くことも忘れず自分のペースで進めることができた。その中で、「これはやってよかった」と思える勉強方法が3つあるので以下に紹介したい。

### ①自己分析をして自分を徹底的に見つめ直す！

自己分析は、就職活動をする学生がよくやっているイメージがあるが、教員を目指す者

にとっても非常に大事なことだ。自分のことさえ分からなければ、他人のことなんて、なおさら分からないからだ。教職教養、専門教養の勉強は3月までに100%仕上げる。それと同時に自己分析を進め、下の「人間性を高める」項目とも関わるが、4月以降はひたすら教師としての素質を高められるようにした。

具体的に、私が作ったノートは2冊ある。1冊は自由帳の要領で、そのとき思いついたことや、自分について、言葉、日記など、何を書いてもいいものにする。もう1冊は、面接練習専用のものである。自分だけでなく他人の面接練習も見、質問と答えを書き溜めていく。頭に浮かんだことや、人から言われたことは、全て覚えていることはできないので、とにかくどんなことでも書き出すことを意識した。

これらのノートを見返し、今の「自分」が全て分かるというくらいまでできると、紙を見ながら読み上げたような面接ではなく、本当の自分の思いや考察がスラスラ出てくるようになる。これはぜひ受験生にやってもらいたいと思う。

### ②勉強だけにこだわらない！人間性を高める！

前述したように、教職教養、専門教養は3月までにはほぼ完璧にできるようにしたい。4月からは、教育実習の準備や面接練習に時間を割けるようにするためだ。私の場合、4月からは上記の自己分析に加えて、自分の周囲にいる色々な人たちと会話をたくさんするようにした。友達、先生、バイト先の知り合い。また、千葉県で実施されている「教職たまごプロジェクト」にも参加していたので、実際の学校現場で、生徒たちや教員の方々と話す機会もあった。色々な世代の人とコミュニケーションを取ることで、会話術や表情、聴く力が鍛えられ、自分の人間性が高められるのではないだろうか。

また、勉強しかできない教師にはなりたくないと思っているので、友人と遊ぶことも忘

れず、月に何回かは全く勉強をしない日も作っていた。試験が迫るにつれて、それくらいの気持ちの余裕が持てればいいと思う。

### ③教採までの緻密なスケジュールを立てる！

これは受験生として当たり前のことだとは思いますが、改めて強く言いたいことである。試験までの日数から逆算し、自分が今のどの状況にいるのかしっかりと把握していることが大事だ。そこからまた、何をしていくべきなのか、きちんと目に見える状態にする。スケジュール帳を有効活用して、その月の目標を書いたり、決めた時間や、その日やるべき問題集を細かく書きこんでいく。やることリストを作る。など、やり方は自分次第でたくさんある。勉強の方法も人それぞれだとは思いますが、私が一番強調したいことは、「書いて現状を把握する」ことだ。

以上のようなやり方で私は勉強を進めてきた。勉強といっても、ただ参考書に書かれている内容を暗記したり、問題集をやりこむだけではない。将来もし教師になったら、子どもや保護者と顔と顔を合わせて、コミュニケーションを取っていかなければならない。それら全てを含めて、教員採用試験までに人として成長できるよう頑張ってもらいたい。

---

## 教採に向けた私の足取り

渡辺 麻衣（文学部英文学科4年）

---

2014年度の教員採用試験で、私は神奈川県英語科の高校教諭への採用が決まりました。本日は教採に向け行ってきた準備内容について、時系列にお伝えします。

本格的に教採の勉強に取り組み始めたのは、3年の夏でした。それまでは、チアリーディングサークルに打ち込んだり、ボランティアをしたり、短期留学に行ったり…。試験勉強には直接的には関係ないことをしていた時間の方が長かったように思います。しかし、興味を持ったことに対して真剣に取り組んだ経

験は、教採の二次試験の際、アピールポイントとなりました。

加えて、1～2年のうちに沢山情報を収集できたことが、功を奏しました。教職課程センターの先生や先輩に相談に乗ってもらい、教採の情報誌に目を通す、志望する自治体の教採のHPを調べるなどの方法で収集しました。できれば、前年度に同じ自治体の、同じ科目を合格した人に、話を聞くことをお勧めします。もし私が、神奈川県英語科の前年度の教採合格者に会えてなかったら、合格できなかったに違いありません。

神奈川の英語科は、二次試験に英語の実技試験があります。初めは「試験内容がHPを見ても載ってないし、対策の仕様がないうや～」と、生ぬるい考えを持っていました。が、対策はどの試験でも必須です。試験当日は、待合室の受験者ほぼ全員が、ノートやプリントを見ていました。しっかりと対策をしてきていたのです。

3年になり、サークルを一足先に引退し、飲食店のアルバイトを辞めました。代わりに始めたのが、塾講師のアルバイトとスクールボランティア、そして教採の勉強です。塾講師の集団授業のアルバイトは、模擬授業対策になりました。大変ですが、大いにお勧めします。

教採の一次試験対策は、参考書を使って独学で行いました。3年の夏休みのうちに、『合格のLEC これだけ覚える教員採用試験 教職教養』（成美堂出版）を一巡しました。教職教養の参考書は他に、『教職教養ランナー』（東京教友会）も使用しました。夏休み明けに、『教員採用試験過去問シリーズ』（共同出版）の一般教養・教職教養・専門教養を解き始めました。その時に、専門教養が予想以上に難易度が高く驚愕しました。専門教養で求められるレベルは、英語は英検準一級、TOEIC800点程度です。英語の資格を持っていても、そのくらいのレベルでないと履歴書に書いては

ならないそうです。3年の秋からは、英検準1級や1級の単語帳、『DUO3.0』（株式会社アイシーピー）などを使って英語の勉強もするようになりました。

4年になる前の春休みに、教職課程センターの勉強会に参加しました。小論文対策は教職課程センターで行っただけです。ここまできめ細やかに指導してもらえる場所は、中々ないでしょう。

模試も2回だけ受けました。受けたとしたら、受験者数の多い「東京アカデミー」や、小論文の添削が丁寧な「共同出版」の模試が良いと思います。

4年になって、面接ノートを作成し始めました。『教員採用試験 攻略サポートシリーズ 合格面接攻略法』（時事教育出版）に記載されている質問内容に対する答えを、一日3つ考えノートに記入していきました。

教育実習前には一次試験の勉強が完成するようにしました。実習の期間は勉強できませんし、実習が終了してしまうと1ヵ月しか残っていません。

一次試験の合格発表から二次試験までは、2～3週間でした。時間が足りないと嘆く日々でした。二次試験の個人面接前半では、「自己アピール書」に書いた内容に沿った質問がされました。自己アピールは考えるのに労力を要しますが、しっかり考えておくべきです。個人面接後半は、「問題行動」に関する質問が殆どでした。神奈川県は「問題行動」に関する質問への対策が必要です。

以上が私の足取りですが、少しでも同じ道を歩もうという人の力になれば幸いです。同じ教員として、生徒の未来、社会の未来の為に頑張っていきたいと思います！

---

## 経験、行動力が命

熊瀬 亮（文学部史学科4年）

---

私は2015年度教員採用試験で、神奈川県

の小学校教諭に合格しました。もともとは東京都の中学社会を目指していたのですが、ボランティアの経験から神奈川県小学校を目指すようになりました。小学校教諭の免許は、通信制の大学とダブルスクールで取得しました。今日は、私が試験対策に行っていたことを3点、話をさせていただきます。

まず、現場に足を運んで自分の気持ちを確認してほしいということです。この話を聞いている方の中には、教師を目指そうか迷っている方もいると思います。教育実習に行くだけでは現場のことは、ほんの一部しか、わかりません。実際に子どもたちの前に立ってみてください。私は、大学1年の時に小学校でボランティアをしたことをきっかけに小学校教諭を目指しました。小学校では、宿泊行事の引率、放課後学習の指導、学童、水泳指導、発達障害を持つ児童に対する支援など幅広く活動させてもらいました。訪れた学校は10校以上、ほとんど毎日子どもたちといました。上手く指導できず、苦しい思いもしましたが、やっぱり子どもが好きだということに気付かされました。それと同時に、経験と知識が噛み合っていくにつれて、上手い指導ができるようになっていくと実感しました。この経験は、教員採用試験を受けるにあたって、大きな武器であり、自信になりました。経験を積むことが一番の試験勉強になりました。

第二に、試験対策は、予備校などには頼らずに行いました。自治体のホームページや教職雑誌で情報を集めていました。一次試験に関しては、かながわティーチャーズカレッジという教師塾に通っていたので専門教養のみの試験でした。塾講師の経験から過去問を分析して、勉強していきました。東京アカデミーや時事通信の模試なども受けましたが、試験の傾向が違い、時間も足らず、あまり参考にはなりません。二次試験に関しては、法政大学の教職課程センターの木村俊二先生と教採仲間、かながわティーチャーズカレッ

ジの仲間たちと勉強しました。4月から、毎週木村先生に論作文と面接、模擬授業の指導をしていただけていました。木村先生は厳しいですが、本当に力の付く指導をしていただきました。苦手な論作文も毎週出すうちにだんだんと良くなりました。面接も模擬授業も誰かに見てもらってやること、映像にして残して反省できるようにすることを大切に行いました。また、仲間たちと行うことで、意識を高く持てました。教育実習などで時間が少ないので、そこまで計算して勉強を始めるといいと思います。

第三に、当日の試験についてです。二次試験は10人くらいのグループになって、模擬授業、協議、個人面接の順番で行われました。私のグループは、臨時任用や非常勤経験者の方が多くて、とても緊張しました。しかし、しっかり受験対策をしたおかげで堂々と自信をもって行うことができました。面接は30分程度でしたが、あっという間に感じました。私はほとんど内容を練っていないタイプだったので頭の中が真っ白になりましたが、受け答えだけしっかりしていたので大丈夫でした。試験官の方は優しい方ばかりで圧迫面接はありませんでした。

最後になりますが、私は一般企業との就活は並行して行いませんでした。4年間現場にいて、通信制の大学まで通ったのもう迷いはありませんでした。それに、余裕がありませんでした。試験勉強をしている際も4月から教壇に立っている自分を想像しながら勉強に励んでいました。何年かかってでも教員になろうという強い思いがなければ教員採用試験はお勧めできません。少しでも教職への興味があるのであれば現場を見てほしいです。気持ちが決まっていないと勉強も捗らないと思います。私も昨年は皆さんと同じ目線で話を聞いていました。来年は皆さんが後輩に合格体験を話してあげてください。応援しています。

---

## 覚悟を決めれば合格に近づく！

戸田 翔大（人間環境学部4年）

---

### はじめに

自分は、企業に就職するか、教職に就くかについてずっと迷っていました。しかし、「死にものぐるいでやって勝ち取った職は一生続けられる仕事だろう」と思い、覚悟を決めました。皆さんにも、覚悟を決めて勉強してほしいです。そのためのコツを以下で伝えていきます。

### 1. 筆記試験についてのポイント

——教職教養：専門教養＝8：2

**Point1** 受験自治体の傾向を読む：過去5年の過去問を解いて出題分野ごとにメモする。その後参考書に出題された箇所をメモしていく。そうすることにより傾向が明確になり、どこを重点的に勉強すればいいかわかる。

**Point2** 1カ月・1週間の計画を立てる：1カ月の目標を立てて、到達点を決める。その到達点から逆算して今週の予定を立てる。計画を立てればやる気が起きなくても行動できる。

**Point3** 1日のサイクルを確定させる：何時にどこで何時間勉強して、休憩をどれくらいとって…ということをサイクルとして体にしみこませれば効率も上がる。

**Point4** アウトプットで自信をつける：知識がある程度定着してきたら（4～6月）、他の都道府県の過去問を解くことがおすすめ。特に埼玉・千葉・東京・神奈川は出題傾向が似ている。1冊のノートに過去問だけをやると、達成感と自信もつく。

### 2. 面接のポイント

- ・自己分析をするなら、過去の分岐点から探る。過去の経験・分岐点に立った時の行動が自分の人格を形成している。その過去を探れば自分がどういう人間なのか、どこが強みなのかを知ることができる。
- ・教育問題においては、関連法・現状・解決

策を一つ一つ持つべき。

→解決策は人それぞれだが、外してはならない部分は多々ある。解決する際に状況を想定して、順序をしっかりと明確にしなが  
ら取るべき行動を考えていく。

- ・ユニークさ、熱意も大切。
- ・最後は本音でしか話せない。

### 3. 模擬授業のポイント

- ・学習指導要領から授業テーマを複数作成。
- ・「授業は料理と同じ」…ネタが良くても調理する腕がわるかったら良い授業にはならないし、いくら調理する腕が良くてもネタが良くないといい授業にはならない。
- ・授業力は数をこなすことで成長する。
- ・良い授業をしなければという気持ちから、なかなか人前でやろうとしないだろう。しかし、友達同士で肩の力を抜いてやることによって how to の力がついたり、思わぬネタが生まれやすくなる。そのための仲間だと思って一緒に練習するべきである。
- ・社会：考えさせる発問をいれる。生徒から複数の意見が出てくるような発問であり、かつ知識を活用して考えさせるもの。
- ・数学：日常において活用できるような題材を選ぶ。
- ・国語：千葉県の場合、6分の授業なので現代文などは時間が足りない。そのため、ことわざ、俳句、古文がやりやすそうだった。

---

## 教員採用試験に向けて

林 純平（経済学部経済学科4年）

---

私は、神奈川県高等学校・地理歴史科の教員採用試験を受験し、合格しました。一次試験、二次試験に分けて私の体験を話させていただきます。

### 一次試験について

一次試験（筆記）に向け、私が本格的に勉強を始めたのは3年生の11月中旬からです。公務員予備校である東京アカデミーに通い、

教職教養と一般教養を勉強し、専門教科である地歴は自分で勉強しました。教職教養と一般教養のテキストは東京アカデミーに通っていない人でも買える東京アカデミーから出版されているオープンセサミシリーズです。他の参考書以上に内容が載っているからお勧めです。また、専門教科の世界史は、大学受験で取り組んだ参考書を使い、日本史と地理もセンター試験レベルの参考書を新しく買いました。

これから教採試験を受験される方に気を付けていただきたいのは、受験する自治体の特色です。私が受験した神奈川県は教職教養・一般教養では参考書には載っているが過去に一度も試験に出たことがないという問題もありました。専門教科については他の都道府県より難しい分、合格の最低点が低いようでした。また、神奈川では教職教養・一般教養、専門教科、全体の合計点の3つそれぞれに合格最低点があるため受ける自治体を必ずチェックして下さい。

私は、11月の中旬から勉強を始めましたが、大学の講義を受けながら12月には民間企業の就職説明会に参加し、3月までアルバイトを続けました。これから教採を受ける方に大切にいただきたいことは時間の使い方です。私は「1日〇時間勉強する」という目標を立てると、どうしても時間を気にしてしまい勉強が進まないのが、1日でやること、1か月でやること、3か月でやることという目標を設定しました。例えば、1日の目標は参考書の教育法規のページを10ページ分と問題演習、一般教養の英語の問題を解く、1か月では教育原理の問題を終わらせる、3か月では専門科目の日本史の問題集を2周はするなどです。1日の目標が終われば自分の好きなことをするなど時間にメリハリをつけるようにしました。また、大学に向かう電車内、大学の講義前などの少ない時間に教育史の人物をフラッシュカードにして勉強をしました。

前期に教育実習のある方はその期間は教採の勉強ができないのでそれを考えて時間の使い方を決めてください。

### 二次試験について

神奈川では二次試験は模擬授業、集団討議、個人面接、小論文がありました。私は模擬授業と個人面接の準備について話をしたいと思います。まず、模擬授業は私自身が教育実習で担当した授業をアレンジし、授業をしました。1回授業をしている分、反省点も入れられ、また、落ち着いて授業ができるので良かったです。個人面接についてはとにかく沢山の回数をこなし、沢山の質問に触れることだと思います。また、一次試験が終わってから大学で何回も練習をしました。そして教職課程センターが主催する二次試験対策講座にも参加させていただきました。

その中で答えられなかった質問やよくある質問はどんどん Word にまとめ、事あるごとに見直し、試験当日にはプリントして試験会場に持っていきました。個人面接は自分自身の内面にあるものをしっかりと出すことが必要だと思います。また、面接練習をしていく中で早口やうつむいて話すなど相手からの印象も知ることができます。ぜひ、色々な人と何回も練習してください。

### 最後に

教職課程センターでは小論文や二次試験で提出する自己 PR 書の添削、集団討議の練習など様々なことをしていただきました。また、教育実習中には実習先の先生に教採の話をしていただきました。教採を受けるにあたり最も大切なことはたくさんの人から情報とアドバイスをいただくことだと思います。自分との戦いだと思いますが、教員になるのを楽しみに頑張ってください。

---

## 教員採用試験を頑張るみなさんへ

中野 衣代那 (社会学部社会学科 4 年)

---

### Q1：試験勉強開始はいつ頃から？

私が勉強をし始めたのは 3 年の 10 月からです。3 年の就活を目前にして、自分の進路について考えた時に教員の道を選びました。予備校と教職課程センターを利用して勉強や二次試験対策をしていましたね。

### Q2：大学の仲間との採用試験への取り組みは？

私は、教職課程センターに来ていたスポーツ健康学部の学生 4 人と勉強をしていました。去年の「合格者の体験を聞く会」がきっかけで集まるようになりました。

仲間がいると、悩みが共有できたりするので私は教職課程センターの仲間と出会えて良かったと思っています。みなさんも、こういう出会いを大切にしてくださいね。

### Q3：一次試験及び二次試験の取り組みは？

[一次試験：筆記]

推薦の為、未受験

[一次試験：論文]

相模原市の論文は少し特殊なので論文の練習に苦勞しましたが、自分で論題を作ったり、教育新聞などを読み知識を深めながら対策をしました。書いた論文は色々な先生に見ていただき、自分の力にしていきました。

[二次試験：模擬授業]

模擬授業は事前に準備が出来るので、一次試験前からガッツリ教材を準備していました。内容にはご当地のネタを仕込み、練習も何回もしました。模擬授業は授業というより、パフォーマンスのような感覚でした。ただ授業を作るのではなく、如何に食いついてもらうか。そこを押さえておくといいと思います。

[二次試験：集団協議]

自分にはどのような役割が向いているのかというのを知っておくのも良いと思います。集団協議と言うと「司会を取らなければ」と思いがちですが、他にも話がずれた時の「修

正役」、話し合いが詰まった時に新たな視点を発言をする「切り替え役」などの大事なポジションがあります。自分が司会以外にどういったポジションを取れるのか、知っておくと当日司会を取られても焦らないと思いますよ。

#### [二次試験：面接]

まずは面接の事前の取り組みについて話したいと思います。面接は、“軸”みたいなものをしっかり用意しておくとうまいと思います。軸を1本持っておくと、試験官からの質問に対して一貫した答えが言えますし、気持ちがかもった返答が出来ると思います。

自分の試験当日、思いもよらぬ質問もありましたが、自分の中にこうした軸があったことで、落ち着いて答えることが出来ましたし、自分らしい返答が出来たと感じています。ですから、面接の練習をする前に「自分がどんな先生でいたいのか」ということを考えておくとうまいのではないのでしょうか。

**これから受験を考えている学生へのアドバイス**  
・大学の勉強も大切に！

私は一次試験の筆記試験を“大学推薦枠”でパスしました（一次にはもうひとつ論文があるので、これは試験会場で受けました）。教員採用試験を受けるにあたり私の1番の不安要素は筆記試験だったので、この推薦枠は私には大きかったです。

大学推薦は、大学での成績などの規定もあるのでそれに達していないと推薦はもらえません。成績は毎学期の積み重ねです。こういう話が来ないとも限らないので、大学での勉強も頑張っておくとうまいですよ。

#### 最後に

教員採用試験の勉強をしていると、不安になることがあると思います。いろいろと考えてしまい、勉強が手につかないということもあるかもしれません。ですが「もうやるしかないっ…！」と言い聞かせるしかないんですよ。弱音を吐きながらも、泣きながらも良いんです。食いついていくことがまずは

大事だと思います。やるべきことをやっていたら、結果は自ずとついてきます。ですから、試験当日まで後悔のないようにみなさん頑張ってください。

---

## 体育教員を目指して

阿部 雅人（スポーツ健康学部4年）

---

私が教員として来年からスタートできるのはスポーツ健康学部や教職課程センターの先生方、教師を志す仲間たちが支えてくれたおかげです。自分を支えてくれる人たちに感謝し、その人たちと切磋琢磨していくことが採用試験を突破するだけではなく、教員としても社会人としてもとても大切なことだと思います。

私は3年生の10月ごろスポーツ健康学部の東京アカデミー（予備校）講座の受講と共に、教職教養から勉強を始めました。主に講義で配られたレジュメと共に東京アカデミーの参考書（オープンセサミ）などを読み返して各章に付いている確認問題を復習していくというやり方で勉強し、12月までは教職教養しか勉強することができませんでした。年明けぐらいに論文に手を付け始め、自分は論文が苦手であることをこの時期に確認できたことがとても良かったと思っています。

春休みに教職教養は東京都の過去問を解き、専門教養は講座の進行と共に東京アカデミー（オープンセサミ・ステップアップ問題集）を中心に勉強し、論文については教職課程センターで先生方や仲間と添削して意見交換を行いました。教職課程センターに置いてある『教員養成セミナー』（時事通信社）や『教職課程』（協同出版）で採用試験の情報を入手して、教養・専門の問題を解くことや実際の教職論文を読むことがとても役に立ちました。

4年になった4月からは教養も専門も過去問を中心に行い、東京都の問題をコピーしてノートに貼り付け、そこに自分で色々知識を

書き込んでいくという勉強をしました。東京都は選択問題が多いので正解の選択肢だけではなく、不正解の問題もどこが違うのかを調べて書いておくことで知識が増え、自分専用ノートが後々役に立ちました。論文についてはとにかく書いたら教職課程センターの先生方や仲間と添削しあうことが重要なので、週に1回くらいのペースで取り組んでいました。

私は5月末から約1ヵ月教育実習で全く勉強できなかったため教育実習までに教養と専門は終わらせておくと良いかもしれません。実習後はほぼ論文を中心に教養と専門は知識の確認に徹していました。市ヶ谷キャンパスに行くと論文の添削や授業を受けて教育問題の社会的背景などを考えるようになり、一次試験だけではなく二次試験にも活かってくる内容であったことがとても良かったと思います。

二次試験は東京都の保健体育の場合は集団討論・個人面接・実技という内容で面接試験の配点の割合が高いという情報を知り、7月13日に一次試験が終わり、一次試験の結果を待たずして教職課程センターの先生方や仲間とお互いに練習していました。志望理由や面接回答をノートに書き起こすことや人から言われたことをノートに書き残すことで、面接ノートを作っていました。

集団討論については、内容をすぐにノートに残して他人の意見も自分の知識として役に立てるように意識していました。また、スポーツ健康学部の教室で自分たちだけで集団討論や個人面接をして、お互いに受験者と面接官を経験することで、立ち居振る舞いや言葉遣いを学ぶことができました。とにかく二次試験対策はたくさん回数をこなすことで、自信はもちろん色々な人の意見を聞くことでとてもいい勉強になりました。

私は多摩・小金井・市ヶ谷と3キャンパスすべて面接講座等を利用したことで、様々な先生方の指摘や意見を聞くことができたことが自分を成長させることに繋がりました。自

分で情報に対してアンテナを張り、行動に移そうと考えていたことが成功の秘訣だと思います。時には臨機応変に対応するところ、自分の核を持って譲れないところ等出てくるとは思いますが、それはこれから教員になってからも直面する問題だと思います。すべて自分が教師になるための勉強だと信じて前向きに取り組んでいけば必ず道は開けてくると思います。

---

## 夢への軌跡

長瀬 友香 (スポーツ健康学部4年)

---

試験勉強は3年生の後期に、大学で開講された東京アカデミー(以下:東アカ)の教員採用試験対策講座を受講したところから始めました。しかし3年生の間はなかなか実感を持たず、試験勉強への憂鬱さから「本当に教師になりたいのか」と迷うこともあり、まったく勉強に身が入っていませんでした。それでも東アカの講師の方の教え方はわかりやすく、授業でやったことをほとんど覚えていなかった私にとって、基礎の構築には役立ちました。また、講師の方が進める勉強法を素直に実践し後々の効率化につながったように感じます。3年生の間は講座で基礎を学ぶことしかほぼ行っていませんでした。

進路を改めて自分で考え教師になるという意思が固まり、積極的に勉強を始めたのは3年の春休みの最後、3月頃からでした。一次まで4か月しかなかったため、とにかく効率の良さを求めて勉強しました。東アカでいわれた通り教育史及び暗記事項は単語帳を作成し、通学時間などの移動時間で覚えました。その他教職教養・専門教養は、過去問を5年分解き、2周ほどしました。初めは全然解けませんが、間違えた部分や理解していないと感じた部分をB6サイズのノートにまとめ、こちらも移動時間や空き時間に覚えていきました。過去問と並行して、参考書の復

習も教職・専門ともに1周ずつ行いました。過去問に出題されたけれど参考書に載っていない内容は、大きめの付箋に書いて貼り付けていき、自分だけのオリジナルの参考書を作りました。さらに、自宅の部屋やトイレのドアなどに暗記事項を書いた付箋を貼って覚えました。

6月からは1日1枚と決めひたすらに論文を書きました。東京は論文の配点が高いという噂があり、時間がない中で論文には力を入れました。教職課程センターで論文添削を何度もしてもらったり、学校サポーターとして通っている中学校の副校長先生に見て頂いたりしました。1つの題目に対する論文が完成するまで、同じ題目を何度も書き直しました。同時に論文の「ネタ」をまとめカードにしました。教育の具体策は、現職の中学の先生にお話を聞いたり、実際の教育現場から盗んだりしてリアリティを追求しました。導入やまとめの書き方は教職課程センターの先生に教えてもらいながら、もとなる骨組みをある程度考えておきました。一次試験において、教養の点数はさほど良くなかったと思います。論文には自信があるので論文のおかげで一次突破をできたかなと感じています。

二次対策はとことん教職課程センターにお世話になりました。集団討論と個人面接は、教職課程センターの先生方のご指導の下、何度も大学の仲間とともに実践を重ね、自信をつけていきました。また、仲間と意見を交えながら自分の考えをまとめたり、お互いに改善点を指摘し合ったりしました。実技も林先生が練習する場を設けてくださるなど大学にはお世話になりました。また私の母校の高校が実技の試験会場ということもあり、高校の同級生の受験生とともに母校でも実技の練習をしました。二次対策において受験生の仲間の存在は重要だと強く感じました。

さらに実際の教育現場とのつながりがあるとなお心強いと思います。私は3年生の1月

から学校サポーターを始めましたが、一次の論文でも二次試験でも「現場の目」が説得力につながります。私の場合、副校長先生が面接練習を下さったり、体育の先生が合格論文を下さったりと、現場の先生方が大変バックアップして下さいました。そして自分の考えと志をしっかりと持つことが重要であると考えます。それらが固まっていれば、私のようにスタートで足踏みすることもなく、着実に合格へ近づいていけるのではないのでしょうか。これを読んでいる皆さんといつか教育現場で出会えたら最高です。

---

## 教員採用試験合格体験談

土谷 侑平（理工学部創生科学科4年）

---

私は北海道と川崎市の教員採用試験に合格しました。教科は数学です。北海道は一般受験、川崎市は大学推薦を利用しました。これから私の勉強方法や対策の仕方について話したいと思います。

私が教員採用試験の勉強を始めたのは、3年生の夏休みからでした。夏休みの勉強で最初にやったのは過去問研究です。書店に行って過去問を購入し、問題の傾向を整理しました。その自治体によって出題傾向が違うので、自分の受験する自治体の過去問研究を必ずやるようにしてください。

教職教養は参考書を購入し、要点を整理することから始めました。参考書を何度も読み、まとめノートを作成する等、暗記するようにしました。一通り参考書を読み終わったら、まとめノートの作成と並行して、問題演習に取りかかりました。3月まではこれの繰り返しで、過去問演習を始めたのは4月からでした。過去問は過去5年分を本番までに3周やりました。

一般教養は参考書と問題集を購入し、社会等の暗記科目を中心にやりました。一般教養は出題範囲が広く、対策が難しかったので、

教養試験は教職教養を中心に勉強していました。

専門教養は問題集を購入し、同じ問題集を3~4周繰り返しやりました。できるまで何度も解くことで専門性に自信がつかます。高等学校の教科書も必要に応じて使用し、基礎を確実なものにしていきました。自治体によっては、学習指導要領からの出題もあるので、学習指導要領にも目を通しておくといでしょう。

次に二次試験の話をしします。二次試験対策は、小論文は4年生の4月、面接や場面指導は6月からはじめました。

小論文は4月から過去問に取り組み、添削は教職課程センターにお願いしました。基本的に1週間に1回、試験前は1週間に2回書き、添削していただきました。最初は論旨がテーマに沿っていなかったり、説得力が弱い論文でしたが、何度か練習していくうちにコツをつかむことができました。本番までに、5本以上練習したほうが良いと思います。

面接は教育実習が終わった6月からはじめました。面接も教職課程センターで練習しました。面接の対策として、面接ノートを作成することをおすすめします。Q&A方式で自分の考えをまとめて、その答えに対してどんどん掘り下げていきます。面接は配点が高いので、しっかりと準備をして本番に臨むようにしてください。

ここからは実際の試験のことを話そうと思います。面接試験は面接官が4人いました。質問の内容は様々ですが、4人とも共通して、教員に対する熱意を見ているという感じでした。なぜ教員を志望するのか、目指し始めたきっかけや教員の魅力についても聞かれました。限られた時間の中で面接官も判断しなければならないので、圧迫してくる面接官もいました。そのような状況でも、自分の考えを相手に伝えなければならないので、しっかりとした対策が必要であると感じました。

場面指導も面接と同時期の6月からはじめました。場面指導は参考書を読みながら時間内に指導法を考える練習をしました。場面指導も教職課程センターで指導していただきました。場面指導は慣れるしかないなので、自分からどんどん練習するようにしてください。

外部のイベントもおすすめです。私は教育に関する講演会等に参加し、自分の教育観を整理していました。これは面接試験で必ず生きてきます。なお、有料ですが模擬試験もあるので、積極的に受験するのも良いと思います。

教員採用試験の倍率は非常に高く、合格するためには十分な対策が必要です。本番で後悔しないためにも、早めの準備をしてください。遅くとも2月から一次試験の勉強を始めてください。一般に二次試験が難しいと言われるますが、一次試験を通過しなければ、二次試験を受験することができません。ですので、しっかりと対策をして本番で自分の持てる力を十分に発揮できるように、今できることから準備を進めてください。応援しています。